

# 発 明 文 化 論

〈第 71 回〉

丸山 亮

## 秘 密 の 維 持 管 理

アップルの新型 iPhone が発売された。購入一番乗りを目指して行列に 10 日前から並んだ人もいたらしいが、手にしたものは事前に予想されていた品とほとんど差がなかったという。アップルは徹底した情報管理で顧客の期待感を高めてから製品を出す手法で知られ、今回はその情報が事前に漏れていたことになる。

アップルが経営方針の秘密主義に転換を迫られた事件がある。部品を受託製造する台湾系メーカーの中国深圳市にある工場で、2012年の11月、数千人の従業員が暴動を起こした。背景には労働問題があったようだが、アップルはこれを機に、部品調達先など、一定限度で経営情報の公開を余儀なくされた。日本企業が製造している部品も全体の5割を超えているといわれ、残りを中国、台湾、韓国などが製造している実態が明らかになった。アップルはこれらのメーカーから部品を調達するにあたって守秘義務を課しているものの、調達先が多くなるとどうしても情報の漏れが起きやすい。

製品の仕様は市場に出た途端、秘密でなくなるから、これらの秘密情報はいわば賞味期限付きだ。そしてこの賞味期限を越えるか越えないかで、一般に情報の価値は左右される。FRB（米連邦準備制度理事会）が先日大規模な金融緩和策を継続することを発表した千分の数秒後に、シカゴの先物市場で大量の取引が開始された。ワシントンからシカゴにデータが届くのに千分の7秒かかるといわれ、シカゴの取引開始はそれよりも千分の数秒先を行っていた。FRBの発表内容を、報道機関が事前に漏らしていた可能性が指摘されている。

経済価値を持つ情報が秘密にされるのは当然で、秘密管理の例は古今東西いくらでもあげられる。ヴェネチアは特産品のレース模様を封じ込めたグラスなどの秘密を守るため、職人をムラノ島に集めて移動を禁じ、背けば死罪と定めていた。有田焼の有田では、江戸時代、鍋島藩が赤絵と呼ばれる染付の技術を保護するために業者を赤絵町に集め、その町は行き止まりになっていたという。そして顔料を祖父と父がすり、子がそれを使う一子相伝で技術が伝承された。

くさやの干物を作る液も秘伝とされ、江戸時代、娘の嫁入りに家のくさや液を持参金代わりに持たせた話が伝わっている。鰻屋のたれの多くは秘伝といわれる。こうしたレシピを秘すもっとも有名な例は、コカ・コーラだ。1919年に融資を受ける際の担保とされたのが始まりで、今日でも鉄壁の保管庫に仕舞い込まれている。

雇用の流動性が激しい現在では、技術流出が常に問題になる。特許出願は1年半後に公開されるから、期限付きの秘密情報だが、その公開を望まないノウハウは厳重に管理し、流出から守らなくてはならない。退職者を通じて方向性電磁鋼板の技術が漏らされた疑いで、新日鉄住金と韓国のポスコの間で訴訟が持ち上がっている。この鋼板を製造するノウハウは会社の最高機密で、社員でも工場のどこで製造しているかわからないようになっており、現場への出入りは厳重だったという。技術盗用が本当にあったのかどうか、裁判所の判断が注目される。

こうした技術流出にからむ訴訟は世界各地で頻発していて、数年前にはフランスの自動車メーカー、ルノーから電気自動車の関連技術が中国に渡ったことが疑われた。産業スパイ事件として世界の注目を集めたが、結局、証拠がないまま事件の解明には至らなかった。

一方、政府は近く「特定秘密保護法案」を提出する。防衛、外交などの分野で漏れると国の安全保障に著しい障害となるものが特定秘密に指定されるようだが、企業秘密と同様、その選別は容易でない。これは一定期間後に公開して、秘匿が正当であったか検証する必要があるだろう。

（まるやま りょう 共生国際特許事務所 弁理士）